

防火訓練を実施しました

令和6年2月15日(木)に、当院放射線部で火災が発生した想定で防火訓練を実施しました。火災が発生した階だけではなく、各病棟や各部署においても患者さんの避難誘導や安否確認を行い、発災時の体制や連携方法などを共有することができ、大変有意義な訓練となりました。



消火器訓練の様子



患者さんをエアストレッチャーで移送している様子

また、吹田消防署の職員の方にも参加していただき、職員の動き等について講評をしていただきました。

かかりつけ医をお持ちですか？

かかりつけ医をご紹介します

当院は地域医療を推進するために、地域の病院や診療所との連携を推進しています。また、急性期病院として専門的な治療を提供する施設を併設しており、症状が安定した患者さまには地域のかかりつけ医をご紹介します。

かかりつけ医をお持ちでない患者さまは、お気軽に患者支援センターまでお問い合わせください。

かかりつけ医
紹介
連携
連携
連携

市立吹田市民病院
SUITA MUNICIPAL HOSPITAL

日頃の健康状態を知っていて、気軽に何でも相談できる地域の医療機関（診療所・クリニック）「かかりつけ医」がいれば、体調などに関して様々なことが相談できます。また、入院や精密検査が必要な場合は、症状に合った適切な医療機関を紹介してくれます。

「かかりつけ医」がない場合、一般の方々が自己判断で受診を手控えたり、延期したり、あるいは、間違った対応策をとっているうちに重症化してしまうといったことが起きることがありますが、「かかりつけ医」がいることでそれも防ぐことができます。

患者支援センターでは近隣の「かかりつけ医」を御案内しています。また、当院では地域の医療機関（診療所・クリニック）と連携し診察・検査予約をお取りしています。



ホームページよりアクセスしていただき、当院の登録医療機関を気軽に検索していただけます。ぜひかかりつけ医をお持ちでない患者さんは、御活用ください。 [かかりつけ医検索システムはコチラ](#)

令和6年4月から 眼科外来診療が紹介制になります

待ち時間の緩和及びスムーズな診察を目的として、令和6年4月から当院の眼科外来は紹介患者さん・予約患者さんのみの診察となります。

眼科を初診・予約なしの再診で受診される際は、必ず医療機関からの紹介状（診療情報提供書）を御用意ください。



当院におけるがん診療について

当院は、がん医療水準の向上及び安心かつ適切ながん医療が選択できることを目的として大阪府が指定する「大阪府がん診療拠点病院」に認定されています。がんについて、当院ホームページにて解説をしていますので、記載のQRコードから御確認ください。



平素より吹田市民病院だよりを御愛読いただきありがとうございます。御意見がございましたら市立吹田市民病院まで御連絡ください。

●編集・発行 市立吹田市民病院 広報委員会

吹田市民病院 だより No.88



〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号
TEL (06)6387-3311
FAX (06)6380-5825
メール shomu@mhp.suita.osaka.jp
ホームページ
https://www.suitamhp.osaka.jp



COPD をご存じですか？

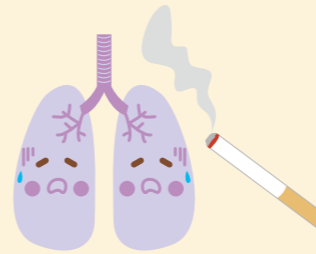
近年高齢化が進むなか、呼吸器疾患、そしてアレルギー疾患患者においてもますます増加傾向です。

その中でも世界主要な死亡原因の1つでありながら、社会的な認知が十分といえない疾患 COPDについて説明をします。



呼吸器・リウマチ科
部長 鉄本 訓史

COPDとは日本語で、慢性閉塞性肺疾患（COPD：Chronic Obstructive Pulmonary Disease）と言われて、従来慢性気管炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称です。主に長期間の喫煙が原因で肺に炎症が起こり、肺が破壊され、気管支が細くなるために息を吐きだしにくくなる病気です。



呼吸器疾患やアレルギー疾患患者の増加傾向を背景に当院では吹田呼吸ケアチーム（Suita Respiratory Care Team -SRCT-）が設立しています。



このチームは、COPDをはじめとする呼吸器やアレルギー疾患に対して、様々な知識や見地を持つ多職種が関わりながらチーム医療を実践することを目的として活動しています。

当初は医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、生理検査技師、地域医療連携部、医療事務室で始まったチームですが、今では作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士も加わり人数が拡大し、多職種間の役割分担と連携をより一層密に行うことができるようになり、医療の質向上へ繋がっています。



COPDの症状について

主な症状として、以下のものが挙げられます。

- 慢性の咳や痰
- 身体を動かしている時の呼吸困難
- 坂道や階段などで呼吸が苦しくなる
- よく風邪をひく



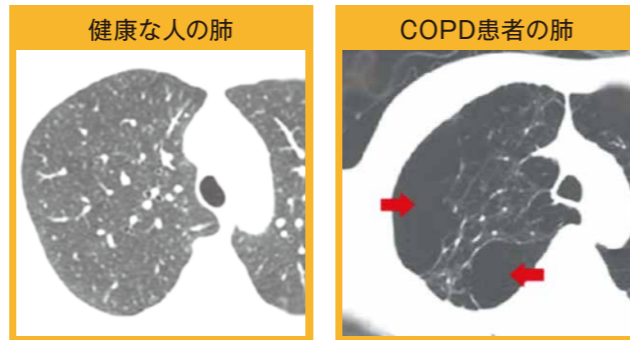
長期間の喫煙がCOPDの原因になることから、上記の症状に加え、「40歳以上で10年以上の喫煙歴があるか」という点も診断するうえで重要になります。



具体的な検査方法

• 画像診断

CTスキャンを用いて、肺泡が破壊され気腔が拡大(気腫化)していないかを確認します。気腫化すると右図のように潰れた肺泡が黒く写り、重症化すると肺全体が真っ黒に写ります。



• 呼吸機能検査

スパイロメーターという器械を用いて息を最大限吸った状態から息を吐き、吐き出した全体量(努力性肺活量)と最初の1秒間に吐き出せる量(1秒量)を測定します。そして、(1秒量)÷(努力性肺活量)の計算式で導き出した“1秒率”が70%未満である場合はCOPD診断の可能性がります。



スパイロメーターで検査をする様子



治療について

COPDの治療方法としては、主に運動療法、栄養管理療法、薬物療法、在宅酸素療法があります。

COPDで一度破壊された肺は元に戻ることはありませんが、早期に病気を発見して治療を開始すれば、症状を軽減し、病気の進行を抑制することができます。

今回は、COPDに対する運動療法の紹介をします。

COPDに関する運動療法について

COPDでは運動をすると息切れがするため体を動かすのがおっくうとなりがちですが、無理のない範囲で体を動かし体力をつけることが大切です。

そうすることで、息切れが改善され、活動が楽になることで食欲増進やより動けるようになり、体力・筋力がアップしていきます。

このような良いサイクルが繰り返されることでCOPDの症状を軽減することができます。



大腿四頭筋(太もも)を鍛えるトレーニング



呼吸を補助する筋肉を鍛えるトレーニング

